

荒川修作の軌跡

一天命反転、その先へ

TRAJECTORY OF SHUSAKU ARAKAWA : BEYOND THE REVERSIBLE DESTINY

2014年5月12日(月)
— 6月14日(土)

10:00-17:00

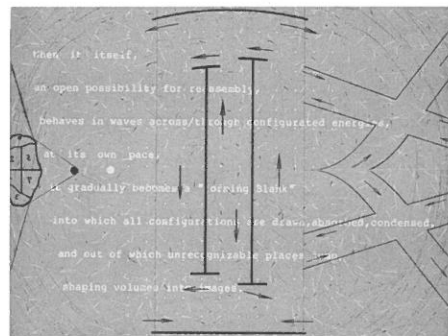
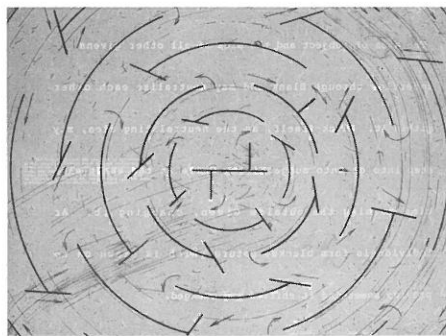
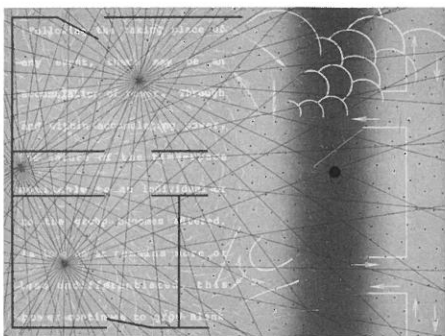
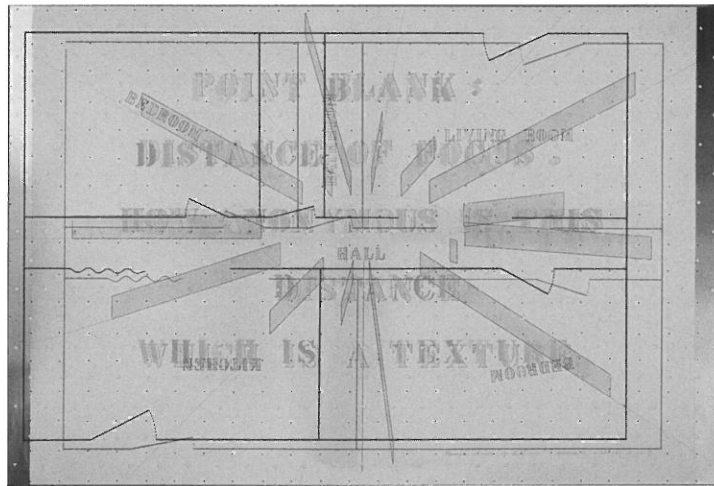
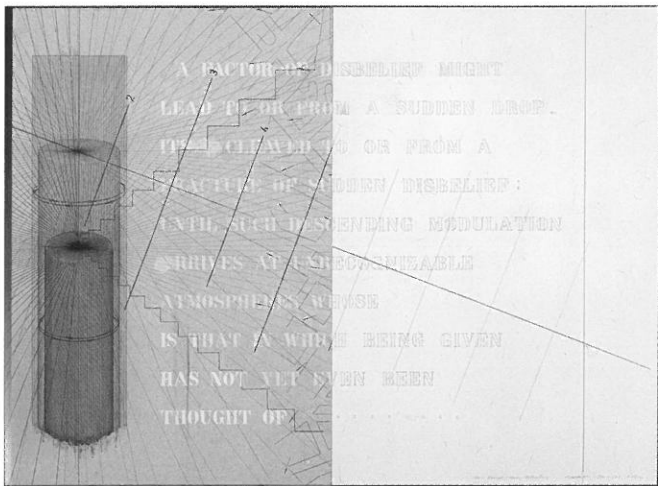
(会期中の金曜日は18:00まで)

入場無料 日曜日休館 ※5月18日(国際博物館の日)は開館

早稲田大学

會津八一記念博物館

AIZU MUSEUM, WASEDA UNIVERSITY



国際的美術家荒川修作（1936-2010）は、長年にわたり早稲田大学を訪れ、講演や討論等を通じて学生や教職員はじめ多くの聴衆に深い感銘を与えました。

ニューヨークで図式絵画や『意味のメカニズム』により世界的注目を浴びた荒川は、その後伴侶のM・ギンズとともに「建築的身体」を提案して新たな環境芸術を指向し、「養老天命反転地」、「三鷹天命反転住宅」の建設を実現するに至ります。

本展では没後も多様な領域で影響力を発信し続ける知の巨人、荒川修作の軌跡をたどります。

（展覧会・シンポジウム共に入場無料）

【シンポジウム】

荒川修作+M・ギンズ記念シンポジウム
「ネオダダから天命反転、その先へ」

ARAKAWA+GINS MEMORIAL SYMPOSIUM :
FROM NEO-DADA TO THE REVERSIBLE DESTINY AND BEYOND

2014年5月19日（月）早稲田大学 小野記念講堂
17:00 開場 17:30 開演（20:30 終了予定）

参加者

- 建畠哲（京都市立芸術大学学長、埼玉県立近代美術館館長）
- 古谷誠章（早稲田大学理工学術院教授、建築家）
- 本間桃世（ABRF 荒川+ギンズ東京事務所代表）
- 塚原史（モデレーター、当館館長・早稲田大学法文学術院教授）

【表紙】 左：《FROM THE MECHANIZM OF MEANING (A+B=C)》(部分) 1972
右上：《COLOR SAMPLES No.2》(部分) 1979
右下：《LIVING ROOM》(部分) 1969

【裏面】 左上：《Or pinned and Vibrating》1977-78
右上：《Through Shards of Between》1977-78
左下：《IS AS IT BLIND INTENTIONS VI》1982-83
中下：《IS AS IT BLIND INTENTIONS V》1982-83
右下：《IS AS IT BLIND INTENTIONS VIII》1982-83



早稲田大学
會津八一記念博物館
AIZU MUSEUM, WASEDA UNIVERSITY

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田キャンパス2号館
Tel : 03-5286-3835 E-mail: aizu@list.waseda.jp
<http://www.waseda.jp/aizu/index-j.html>